

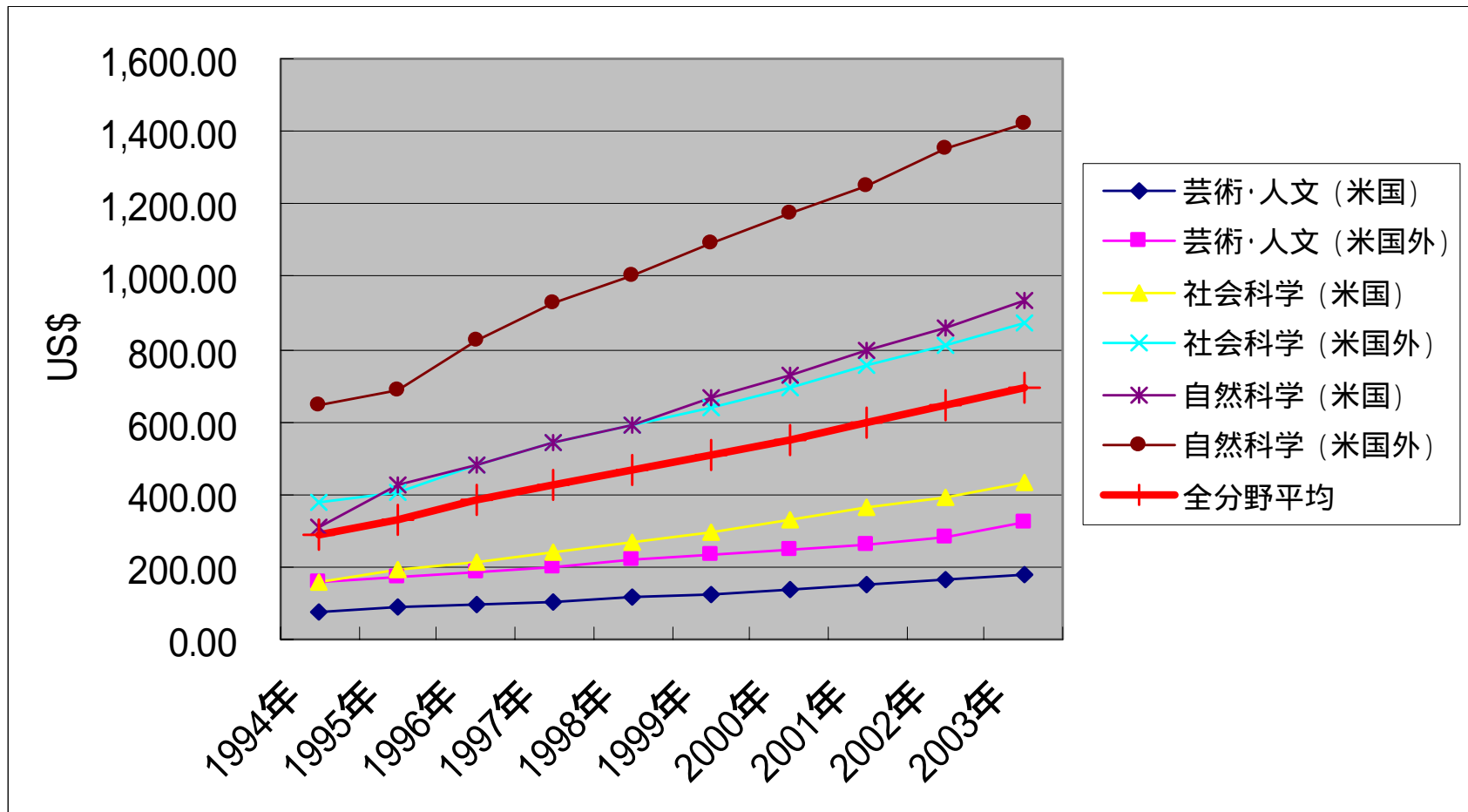
# 学術情報流通システムの変革期に おける大学図書館の取り組み

千葉大学附属図書館

尾城 孝一

[ojiro@ll.chiba-u.ac.jp](mailto:ojiro@ll.chiba-u.ac.jp)

# 雑誌原価推移 (1994-2003)



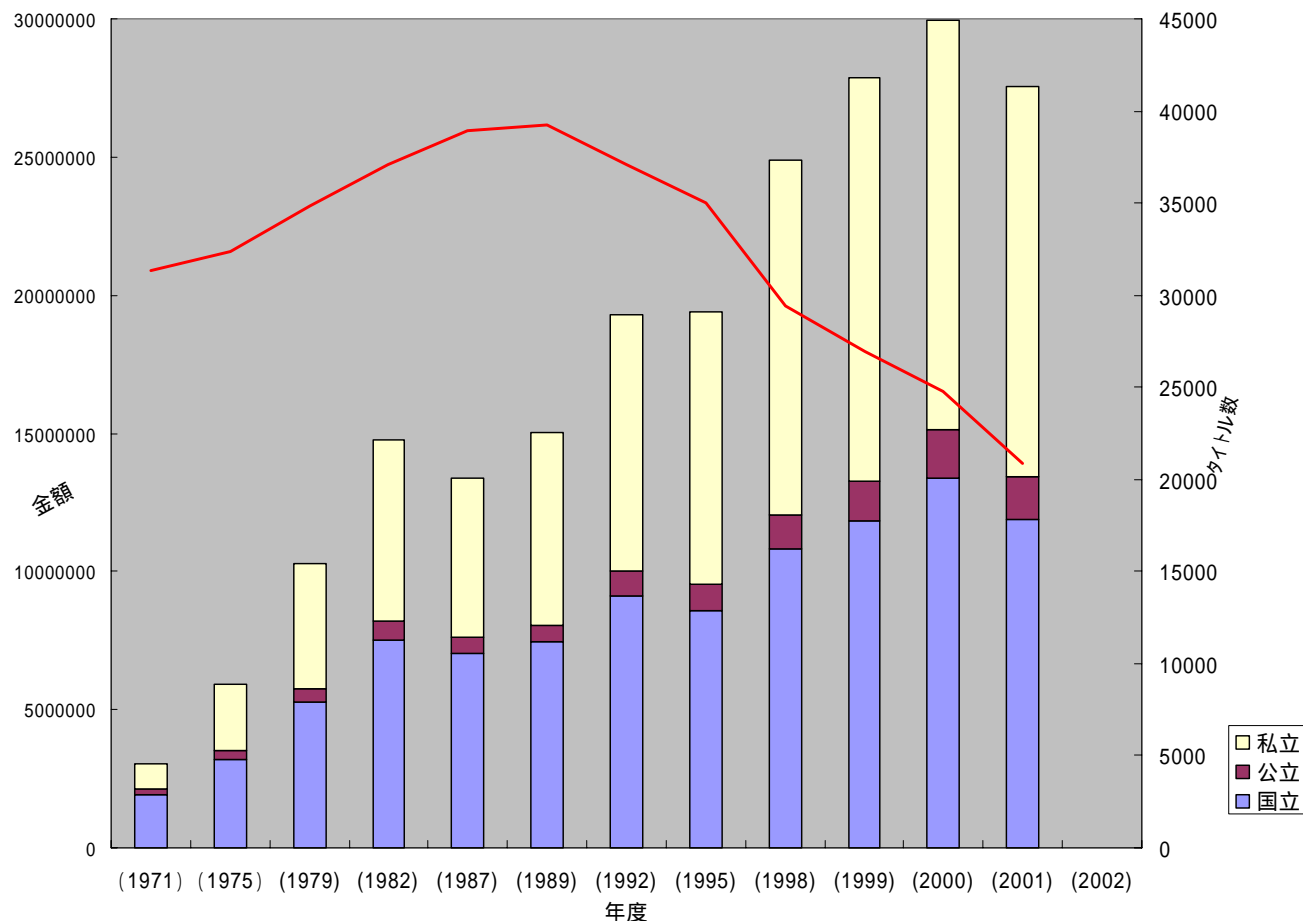
(Library Journalの毎年4月15日号のPrice Surveyのデータによる)

# シリアルズ・クライシス (雑誌の危機)

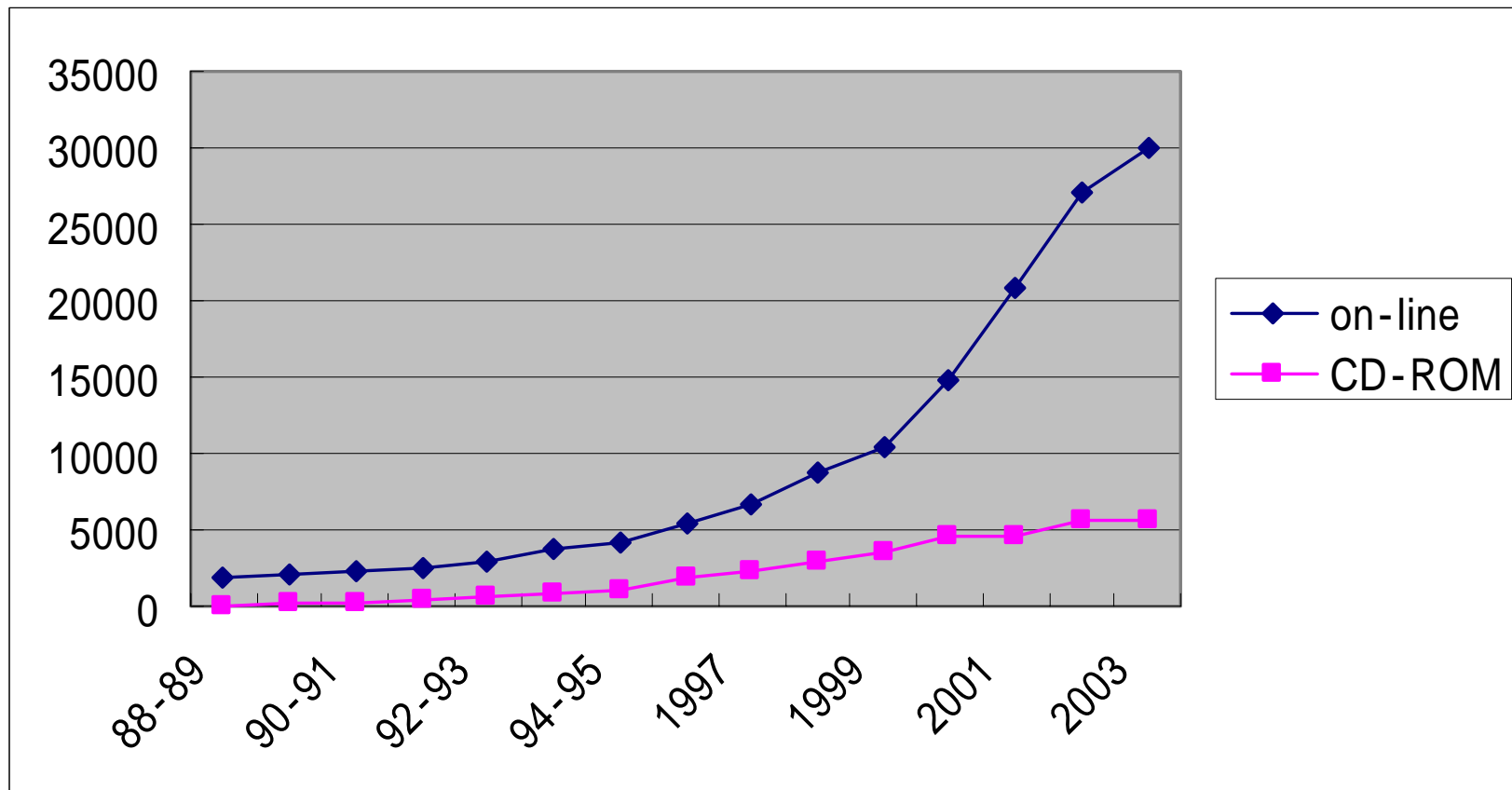
単位:千円

日本国内図書館の外国雑誌購入費および受入れタイトル数

但し1982年度までは和雑誌も含む



# 電子ジャーナル刊行状況



(出典: Ulrich)

# 学術雑誌の電子化の現状

- 学協会出版者協会 (ALPSP: Association of Learned and Professional Society Publishers) の調査
  - “Scholarly Publishing Practice: the ALPSP report on academic journal publishers’ policies and practices in online publishing” (June 2003)
- オンラインで利用可能な雑誌 - 75%
  - STM (科学, 技術, 医学) - 83%
  - 人文社会系 - 72%

# コンソーシアムの形成

- **コンソーシアム戦略**
  - 購買力と交渉力の強化
  - Value for Money (支払い額当たりのアクセス可能データ量)の向上
- **海外のコンソーシアム**
  - 地域別
    - OhioLINK(米国オハイオ州)、VIVA(米国バージニア州)
  - 全国レベル
    - NESLI(英国)、CNSLP(カナダ)、CAUL(オーストラリア)、KESLI(韓国)
  - コンソーシアムのコンソーシアム
    - [ICOLC\(国際図書館コンソーシアム連合\)](#): 160以上のコンソーシアムが参加

# 日本のコンソーシアム活動

- 前史

- EES共同利用(東京工業大学 + 長岡技術科学大学)
- IDEAL、SwetScan共同利用(長岡技術科学大学 + 高専)
- Web of Scienceの試行(九州地区国立大学図書館)
- Elsevier社のSD-21と円価格問題への取り組み(国立大学図書館協議会)
- 日本イデアル・オープンコンソーシアム(国立大学図書館協議会)

- タスクフォースの設置

- 2000年9月, 国立大学図書館協議会のもとに「電子ジャーナル・タスクフォース」を設置

# 参加機関数

出版社名	コレクション(タイトル数(概数))	参加機関数
ACM (Association for Computing Machinery)	ACM Digital Library (270)	13
ACS (American Chemical Society)	(30)	23
BioOne	(70)	3
Blackwell	Synergy (700)	56
CSA		8
EBSCO		24
Elsevier	Science Direct	
フリーダム	(1,800)	36
クロスアクセス + ライフサイエンス		20
クロスアクセス	(990)	24
ライフサイエンス + コンプリート		3
コンプリート		2
ライフサイエンス + リミティッド		6
リミティッド		4
ウェブ		2
Elsevier 計		97



# 参加機関数 ( 続き )

出版社名	コレクション(タイトル数(概数))	参加機関数
IEEE Computer Society	CSLSP-e (雑誌23, プロシーディングス 1,200)	17
	プロシーディングズのみ (1,200)	2
ISI	Web of Knowledge	20
Karger	Karger Online (80)	7
Kluwer	Kluwer Online (640)	55
Nature	Nature, Nature姉妹紙	24
ProQuest		15
Springer	SpringerLINK (430)	84
Wiley	InterScience (360)	67

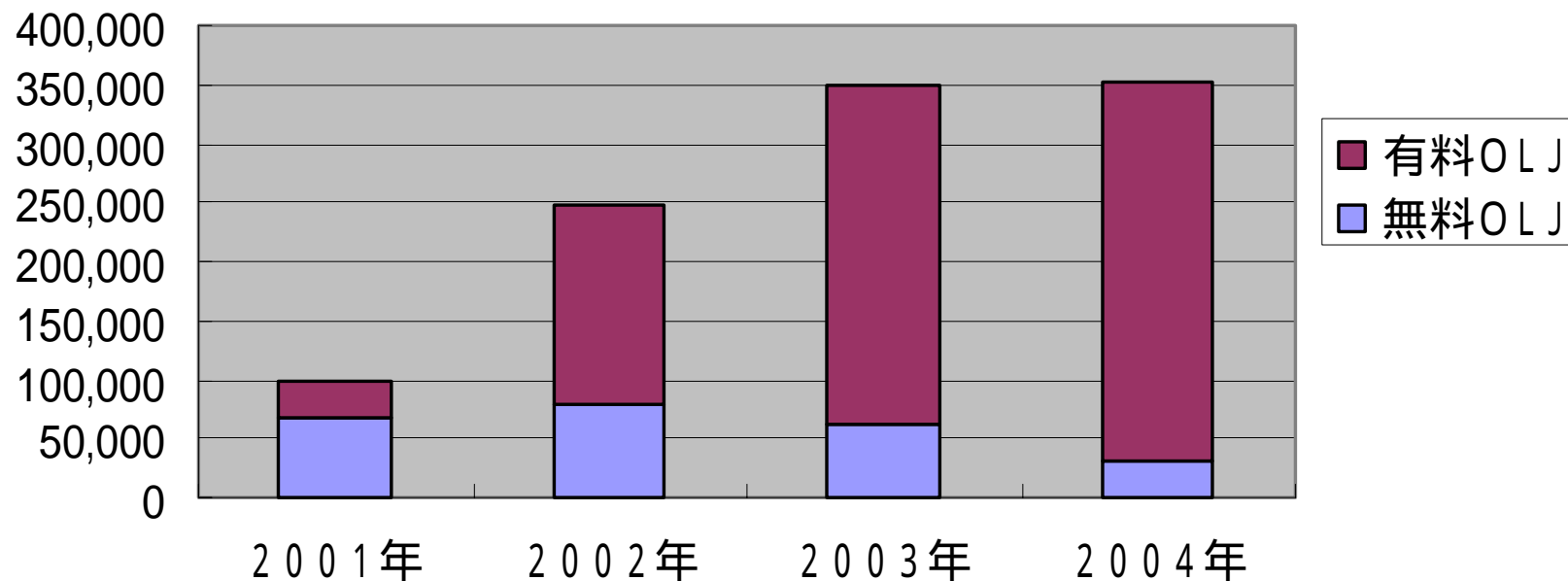
(「国立大学図書館協議会電子ジャーナル・タスクフォース活動報告」に補足)

# 予算の確保

- 文部科学省からの予算配当
  - － 電子ジャーナル導入経費(2002年度～2004年度)
    - 科学技術基本計画の重点4分野(ライフサイエンス, 情報, 環境, ナノテクノロジー・材料)
    - 「呼び水」的経費
- 各大学における取り組み
  - － 重複タイトル調整
  - － 財源の確保(共通経費、学長・総長裁量経費、その他の間接経費・競争的経費)

# 電子ジャーナルの利用環境の向上

国立大学における外国の電子ジャーナル導入状況  
(タイトル数)



(国立大学図書館協議会電子ジャーナル・タスクフォースの調査結果による)

# コンソーシアムの限界

- 値上がりは続く！！
  - Price Cap (値上げ率の上限設定) が最大限の努力
- シリアルズ・クライシス (雑誌の危機) に対する特效薬ではなく、あくまで対症療法
- 学術コミュニケーションの変革の必要性
  - 商業出版社が主導権を握る現在の学術コミュニケーションの仕組み自体の変革が必要

# SPARC

- SPARCとは
  - 1998年に創設された北米研究図書館協会 (ARL: Association of Research Libraries) のプロジェクト
  - 北米等の約200の図書館が参加
- 使命
  - 「科学を科学者の手に (Returning Science to Scientist)」
  - 学術出版の市場における競争の創出
  - シリアルズ・クライシスの緩和
- 世界的な広まり
  - SPARC Europe (2002年 ~ )
  - 国立情報学研究所「国際学術情報流通基盤整備事業」(2003年 ~ )

# 国立大学図書館協会の支援活動

- 組織

- 国際学術コミュニケーション委員会
  - SPARC/Japanプロジェクト(2002年～)

- 支援活動

- SPARCドキュメントの翻訳・公開
- 日本版Create Changeの作成
- 国際学術情報流通基盤整備事業評議会及び運営委員会への参画
- 国内学会誌編集・発行担当者, 電子ジャーナル・タスクフォースとの協議 UniBio Pressとの契約成立

# SPARCの戦略シフト

- フェーズ1:1998年～2003年
  - 学術出版市場における競争の創出
    - 商業出版社が刊行する高額誌と競合するタイトルの創刊支援
    - 大学図書館による購読義務(買い支え)
- フェーズ2:2004年～
  - 2004 Program Plan
    - オープン・アクセス運動の支援

# オープン・アクセス運動

- 学術論文に対する障壁のない(自由な, 無料の)オンライン・アクセスをめざした運動
- ロードマップ
  - オープン・アクセス誌の創出
  - セルフ・アーカイビング



# オープン・アクセス誌

- 掲載論文を無償で利用者に公開するオンラインジャーナル
- DOAJ (Directory of Open Access Journals)
  - <http://www.doaj.org/>
  - 1,129誌 (2004年7月5日現在)
- コスト回収モデルは流動的
  - 読者の講読料 著者の投稿料 (出版料)
    - BioMed Central (\$500)
    - PloS Biology (\$1,500)
  - 助成金
  - オンライン (無料) + 冊子 (有料)

# セルフ・アーカイビング

- 著者が, プレプリント(査読前論文) and/or ポストプリント(査読後論文)を個人サーバ, 分野別サーバ, あるいは大学(図書館)が運営するサーバに蓄積し, それを無償で公開する行為
- 分野別
  - eプリント・アーカイブ
    - arXiv.org(物理), CogPrints(認知科学), RePEC(経済学)...
- 大学・研究機関別
  - 機関リポジトリ(Institutional Repository)

# 大学図書館とオープン・アクセス運動

- 報知活動
  - オープン・アクセス運動の動向を学内研究者に知らせる
- OA誌の支援
  - オープン・アクセス誌へのアクセス支援(ナビゲーション)
- セルフ・アーカイビングの支援
  - 学内研究者のセルフ・アーカイブの受け皿としての機関リポジトリの構築
- 懸案事項
  - 図書館の資料購入費が学内研究者の論文投稿料に振り替えられてしまうおそれ
  - 予算の集約化, コンソーシアム交渉, 講読, ライセンス管理等の業務は不要
  - 行き着く先は, 図書館不要論か?
  - 国内学会誌との関係は?

# 無償贈与のサークル(Circle of Gift)

